

守山中学校校舎改築基本設計・実施設計コンペにかかる報告について

守山中学校校舎改築基本設計・実施設計委託業務（以下、「本業務」という。）を委託する設計者を公募型コンペ方式により選定するに当たり、守山中学校校舎改築基本設計・実施設計コンペ審査委員会（以下、「審査委員会」という。）において審査された結果について、審査講評等を公表します。

平成 25 年 2 月 25 日

守山市長 宮 本 和 宏

1 各提案に対する評価の概要

2次審査応募者の各提案に対する審査委員会における評価の概要は、次のとおりである。

(1) 最優秀作品の評価の概要

提案番号 40 番

校舎が体育館、プールに沿ってコンパクトかつ明快に配置され、運動場が市民運動公園との連続性を保ちつつ、最も広く残されている。立地条件を踏まえた敷地の使い方が1次審査において選定された8者の中で最も優れた提案である。

校舎内についても、1階と2階で1.5学年ずつ配置された教室や中廊下、「読書の庭」をはじめ4つのコモンスペース等がシンプルかつコンパクトにまとめられている。

このコモンスペースは、吊り構造の波状屋根により創出された伸びやかでおおらかな吹き抜け空間となっており、他の提案にはない光と風に満ちたすがすがしい豊かな出会いの場（見つつ見られる空間）を形成している。

特別教室や図書室がコモンスペースとともに校舎内のコミュニティの中心に配置され一体感の感じられるプランであることや、昇降口が駐輪場から近いといった機能的な点も評価できる。

吊り屋根は他の提案にはない斬新な建築デザインであることに加えて、外観が守山宿の連棟式の街並みを彷彿させるとともに、市民運動公園からオープンスペースが連続した空間構成は、湖南街道からの景観にも配慮されており、景観面でも高く評価できる。

守山らしさと立地条件を踏まえコンパクトにまとめられた施設配置、吊り構造の波状屋根により創出された魅力的な内部空間、斬新でインパクトのある外観等は、新しい世代のための公共建築を目指す守山市が選ぶ最適な提案と評価できる。

(2) 次点作品の評価の概要

提案番号 57 番

本提案は、校舎が既存校舎の配列を活かして配置され、過去の校舎の配置の記憶をとどめようとしていることや、方円の庭・中庭を見越した三上山への眺望に配慮していること、工事中に部活動に支障がないように仮設校舎を配置する点等が、他の提案にはない点として評価できる。

また、平面計画についても、1階と2階を大階段等により立体的に計画している

ことや、中央に学年集会ができるような大空間が配置されていること、柔軟に活用できる多目的教室の配置、自動車と緊急車両が保健室に近いところにアプローチできる点等、使用者の視点に立った平面計画も評価できる。

トイレ等一部を除き、上記のとおり全体的によく練られている提案で2次審査応募者の中では高く評価できるものの、エレベーション（立面）について湖南街道からの景観への配慮が不十分なことに加えて、本建築コンペで期待している斬新でインパクトのある建築デザインが認められずオーソドックスな提案にとどまっており、最優秀作品に比べ、相対的に及ばなかったと評価できる。

(3) その他作品の評価の概要

提案番号7番

これまでにみられない面白い建築デザインで全体がまとめられており興味を引く提案である。

生徒が悠々と過ごせそうな空間や緑の配置も高く評価できる。

本提案は守山中学校の生徒の圧倒的な人気があり、模型を見てもわかるとおり屋上など楽しそうな空間が多く提案されている点は評価できる。

一方で、曲がった連続壁を、費用をかけて全体にまで適用する必要があるか、また、こうした建築デザインが中学校建築や、守山市にふさわしいか、もう少しシンプルな構造とした方がよいのではないかという懸念がある。全体として最終優秀作品・次点作品に及ばなかったと言える。

提案番号12番

使い勝手も含めて校舎がコンパクトに納まっている点は評価できる。

また、平面計画や外部動線、植栽計画もよく考えられており、評価できる。

一方で、北側採光が多くトップライトが十分か不明なことや植栽が多い屋上の管理上の問題等が懸念される。

守山市が目指しているものに対するアピール力が不十分で、全体として最終優秀作品・次点作品に及ばなかったと言える。

提案番号43番

土を動かしながら空間のバリエーションを出している点が斬新で面白い提案と評価できる。

また、アンケート投票の意見にもあるとおり、生徒同士や周辺地域とのコミュニケーションへの配慮等は評価できる。

一方で、1次審査以降、校舎とグラウンドの位置を入れ替えるなど配置を大幅に変更しているが、その説明に説得力が乏しいことが疑問とされた。

また、配置・動線計画として、職員室の配置が隅に配置されている点、特別教室

が点在しており動線が長く生徒が移動しにくい点、生徒の溜り場・死角が多い点等において、管理のしやすさや利便性、安全性等の面で課題がある。

また、普通教室や特別教室が仕切られておらず上からのぞけてしまう点、日当たり、風通しがよくないという点、施工のしやすさの点等でも課題がある。全体として最終優秀作品・次点作品に及ばなかったと言える。

提案番号 63 番

校舎の昇降口の近くに配置された大階段を含む「スクールコア」を中心に明快に構成された案である。

また、各教室をフレキシブルな使われ方ができるように計画されているなど設計を上手くまとめている点は評価できる。

一方で、本提案の特徴となっている屋上緑化については、学校の管理上課題があることに加えて、屋上緑化で風景をつくっていくということが自然豊かな守山市にふさわしいか懸念がある。

また、守山市が目指しているものに対するアピール力が不十分で、全体として最終優秀作品・次点作品に及ばなかったと言える。

提案番号 66 番

太陽光パネルによりゼロエネルギー建築の実現を図る提案のプレゼンテーションには説得力があり、評価できる。

全体としてコンパクトに計画されている点、普通教室がすべて2階に配置され1年生から3年生まで交流ができ全員が集まれる点等は評価できる。

一方で、太陽光パネルは、防水工事や維持更新に課題があることに加えて、ゼロエネルギーが太陽光だけでよいのかという疑問や、買取価格が下がるリスク等を踏まえると、ゼロエネルギー化の実現というコンセプトは、それだけで高く評価することは困難である。

太陽光パネルの設備が優先されている印象があり、平面計画が単調であることや、職員室および校長室が端に配置されている点は課題であり、ゼロエネルギー化以外については、全体として最終優秀作品・次点作品に及ばなかったと言える。

提案番号 75 番

平面計画がコンパクトにまとめられており、普通教室と同じフロアに職員室が配置されている点、生徒の親や地元として安心できる計画が提案されている点、プレゼンテーションでも示された守山についての真摯な設計姿勢等は評価できる。

一方で、2階から校舎に入るという動線計画は大きな課題であり、懸念される。

また、全体として空間が単調であり伸びやかさが感じられないほか、トイレが不足している点、カーブをかけたデッキや中央の「ブルーズーン」が十分に生かされ

ていない点が懸念されること等は課題である。全体として最終優秀作品・次点作品に及ばなかったと言える。

2 選定委員会の総評

非常にタイトな提案期間のなか、本設計コンペに対して全国から 109 者から提案をいただいたことに深謝申し上げたい。

各応募者のご尽力により、豊かな教育空間のあり方、建築と自然環境や景観との関係、地域社会と学校との関わりなど、新たな学校建築のあり方に対する貴重な示唆が得られたことは、非常に価値があることと考えている。

最優秀作品は、守山市が選ぶ最適な提案と評価できる一方で、本提案の個性を際立たせている吊り屋根は、耐久性や将来の維持管理に懸念があるうえ、施工性や吹き抜け空間の断熱性、雨仕舞や細部の納まり等への課題が指摘された。しかし、現在の構造技術、施工の管理体制によりその課題は、解消されると判断できる。

また、平面プランについては、廊下等に吹き抜けが多すぎることで、特別支援学級や通級指導教室の位置、トイレや教育相談室の充足性、生徒が増えた場合の拡張性、緊急車両のアプローチへの配慮等にも課題はあるが、こうした課題についても、今後の基本設計・実施設計において、市民説明会を通じて利用者の観点からより魅力ある設計にまとめられるとともに、アンケート投票で示された意見や審査委員会における評が設計・建設段階において適切に反映されることで克服されると考える。

最後に、この守山中学校校舎改築基本設計・実施設計コンペは、公開プレゼンテーションやアンケート投票を経て高い透明性や公正性を確保しながら実施されている点において、守山市だけでなく我が国の今後の公共建築のあり方を先導する事業であり、審査委員会として、守山市と本設計コンペに対する参加者の熱意と努力に対して敬意を表するものである。

以 上

平成 25 年 2 月 25 日

守山中学校校舎改築基本設計・実施設計コンペ審査委員会

委員長

布野修司



守山中学校校舎改築基本設計・実施設計委託業務コンペにかかる取組等の経過報告

平成 25 年 2 月 25 日

守山市教育委員会事務局教育総務課

1 目 的

守山中学校は、昭和 37 年 4 月に、湖南中学校、三和中学校、明富中学校の 3 中学校が統合されて発足し、現校舎は、開校当初のままの歴史ある建物である。

当時は、市内中学生の全てが通学した大規模中学校であり、教育中核目標を「切磋琢磨」（仲間同士が励まし競い合って、向上すること）とし、切磋琢磨の中で手にする大きな達成感と成功体験が成長への足がかりとなり、守山の若者一人ひとりが「自ら育つ力」を身につける学校づくりが今日までなされてきた。

今回、校舎建築より 50 年以上が経過し、老朽化が進んでいることから改築することとなるが、改築にあたり、今後の守山市の教育の在り方を市内外に示す象徴的な施設整備を図る。

具体的な施設整備の方針としては、第一には、これからの時代の学習法に柔軟に対応できる、景観に配慮した守山市の風土を感じられる「守山にふさわしい風土や景観、守山中学校の伝統・文化に配慮した学校づくり」とする。

第二には、日照、採光、通風等に配慮し、自然環境を積極的に取り入れた豊かな施設環境および生徒が人間関係を形成しやすく、ゆとりと潤いのある豊かな空間を形成する「教育環境の質的向上が図れる学校づくり」とする。

第三には、学校施設は、他公共施設と比べ年間の一次エネルギー消費量が小さい傾向にあることから、省エネおよび創エネにより年間におけるエネルギー消費を実質上ゼロに近づけるように配慮し、その取り組みについては、生徒の学習の場に活用できるようにするとともに学習成果を地域に発信し、家庭や地域の環境意識の向上につなげる「環境を考慮した学校づくり」とする。

最後に、ライフサイクルコストや費用対効果、施設耐用年数（約 50 年間）にわたる維持管理の容易性等を十分考慮する「経済性や効率性、維持管理の容易性等に配慮した学校づくり」の 4 つを基本方針として整備し、当該施設が将来にわたり市民に愛着をもたれる施設整備を図る。

上記の施設整備の方針を満たす最適な設計案とするため、技術的に最も適した設計提案者を選定するコンペ方式を採用した。

2 施設概要

- (1) 施設名称：守山中学校
- (2) 建築場所：守山市石田町 350 番地

- (3) 主要構造：鉄筋コンクリート造
- (4) 予定階数：4階程度
- (5) 予定延べ面積：約 7,500 m²
- (6) 敷地面積：44,532 m²

3 スケジュール

- (1) 公告・参加表明書等の様式の交付 平成 24 年 9 月 27 日 (木)
- (2) 現地見学会 10 月 12 日 (金)
- (3) 参加表明書等提出期限 11 月 5 日 (月)
- (4) 設計提案の展覧会 11 月 17 日 (土) から
11 月 18 日 (日) まで
- (5) 1 次審査 11 月 18 日 (日)
- (6) 2 次応募図書の公開プレゼンテーション 平成 25 年 1 月 10 日 (木)
- (7) 2 次応募図書の展示会開催
 展示会場：守山中学校 大会議室 1月11日(金)から15日(火)まで
 守山市役所 大ホール 1月16日(水)から21日(月)まで
 あまが池プラザ エントランスホール 1月22日(火)から26日(土)まで
- (8) 2 次審査 2 月 4 日 (月)
- (9) 最優秀作品応募者との契約締結 2 月 20 日 (水)

4 守山中学校校舎改築基本設計・実施設計コンペ審査委員会

(1) 審査委員会委員

審査委員会の委員は次に掲げる者により構成する。

区分	委員名	所属・役職等
審査委員長	布野 修司	滋賀県立大学研究・評価担当理事兼副学長
審査副委員長	本城 博一	元滋賀県審議員 (文化担当)
審査委員	竹山 聖	京都大学大学院 工学研究科 建築学専攻准教授
	及川 清昭	立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科教授
	馬場 春造	改築を行う中学校区の学区代表者
	中西 周治	改築を行う中学校区の学区代表者
	水野 正裕	守山中学校長

(2) 審査委員会の開催経過

本業務の設計者の受託者を選定するにあたり、審査委員会を計5回開催した。審査委員会の審議・審査等の経過については次のとおりである。

審査委員会	開催日	審議・審査等の事項
第1回	平成24年8月8日	委員長の選出 設計コンペの趣旨・目的について 本業務の概要について 全体スケジュールについて
第2回	平成24年9月6日	公表資料について 審査方法について 公募・審査スケジュールについて
第3回	平成24年11月18日	1次審査の審査方法について 1次審査による2次審査応募者（8者）の選定 2次審査に向けたスケジュールについて
第4回	平成25年1月10日	2次審査応募者による公開プレゼンテーション 2次審査応募者に対する公開質問および各応募者の回答
第5回	平成25年2月4日	2次審査の審査方法について 要求水準確認結果について アンケート投票結果について 2次審査による最優秀作品および次点作品選出 各提案内容の審査講評 最優秀作品および次点作品を市へ答申

4 審査にかかる過程・経過

(1) 現地見学会の開催

本業務の対象となる守山中学校の現地見学会を平成24年10月12日に開催したところ、市内、県内および県外から110名の設計関係者が参加した。

(2) 参加表明書等の受付

本業務について、設計提案書を含む参加表明書等の提出を平成 24 年 11 月 5 日にて締め切り、計 109 者から応募があった。

(3) 設計提案書の展示会の開催

守山中学校体育館において、参加表明者 109 者が提出した設計提案書の展示会を平成 24 年 11 月 17 日および 18 日の 2 日間開催し、市内、県内および県外から 177 名の見学者が来場した。

(4) 1 次審査による 2 次審査応募者の選定

109 者の設計提案書について、審査委員会において本業務に対する理解度、適格性、創造性、合理的な機能性などについて総合的に審議され、次の 8 者を 2 次審査応募者として詳細に、より深く検討した図面、模型等案の提出を求める者として選定。

なお、1 次審査は、応募者の代表者および所属事務所を伏せて実施し、審査終了後に全ての実名、所属事務所およびその他参加者の確認が行われた。

(提案番号順、敬称略)

提案番号	代表者	所属事務所
7	三浦 慎	有限会社 三浦慎建築設計室
12	森戸 勝美	株式会社 第一工房
40	石原 健也	株式会社 デネフェス計画研究所
43	谷尻 誠	SUPPOSE DESIGN OFFICE
57	新居 千秋	株式会社 新居千秋都市建築設計
63	飯田 善彦	株式会社 飯田善彦建築工房
66	大芝 照雄	株式会社 明野設備研究所
75	柳澤 力	有限会社 建築計画連合

(5) 公開プレゼンテーションおよび展示会の開催

1次審査により選定された2次審査応募者8者により、応募図書の趣旨等を説明する公開プレゼンテーションを平成25年1月10日に守山市民ホールにおいて行った。当日は、市内、県内および県外から137名の来場者があった。

また、公開プレゼンテーションとともに、図面および模型の展示会を平成25年1月11日から26日まで、市内3か所(守山中学校、守山市役所、あまが池プラザ)において行い、市内、県内および県外から575名の来場者があった。

(6) アンケート投票結果

公開プレゼンテーションおよび展示会場において、来場者に、気に入った作品の選定および選定理由を記入いただくアンケート投票を行った。

アンケート投票結果は次のとおりである。

提案 番号	全投票数	内 訳		
		市民投票数 (守中生除く)	守中生徒投票数	市外投票数
7	<u>136</u>	10	<u>106</u>	<u>20</u>
12	40	13	13	14
40	<u>114</u>	<u>46</u>	<u>17</u>	<u>51</u>
43	33	11	8	14
57	<u>137</u>	<u>42</u>	<u>62</u>	<u>33</u>
63	50	21	15	14
66	61	<u>33</u>	13	15
75	39	13	11	15
無投票	10	9	—	1
計	620	198	245	177

(7) 要求水準の確認

守山市は、2次審査応募者8者全ての応募図書が、別途、定めた要求水準書に示す必要要件を満たしていることを確認した。

(8) 2次審査による最優秀作品および次点作品の選定

審査委員会は、2次審査応募者の提案について、創造性、機能性、経済性、実現性等の観点から総合的に審議した。

審議は、プレゼンテーションの内容および各提案に対してのアンケート投票結果も踏まえた中で守山市が求めている施設整備の方針に照らし合わせつつ行われた。

最終的には、学校、地元からみた課題や本設計コンペの趣旨、「守山の風土や景観に相応しく、守山中学校の伝統・文化に配慮した学校づくり」、「教育環境の質的向上が図れる学校づくり」、「環境を考慮した学校づくり」、「経済性や効率性、維持管理の容易性等に配慮した学校づくり」にかかる具体的な施設整備の方針にかかる分析等を行い、総合的に評価して、最優秀作品に提案番号40番の提案、次点作品に提案番号57番の提案が選定された。

5 最優秀作品および次点作品の市への答申

審査委員会は、最優秀作品に提案番号40番の提案を、次点作品に提案番号57番の提案を最も適当なものとして選定し、市に答申した。

区分	提案番号	代表者	所属事務所
最優秀作品	40	石原 健也	株式会社 デネフェス計画研究所
次点作品	57	新居 千秋	株式会社 新居千秋都市建築設計